議事 (1) 詳細調査の評価項目(案)について

対象区域調査における比較評価項目の設定

(1) 目的

名取市で抽出された5つの建設予定区域について相対評価を行うための比較評価項目を設定する。

(2) 比較評価項目

比較評価項目は、「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」、平成20年度、平成25年度、令和3年度に亘り名取共立衛生処理組合が実施した候補地選定業務における項目や他事例(宮城県産業廃棄物最終処分場整備に係る候補地選定等)で設定されている評価項目を参考に設定する。

(3) 評価基準

比較評価では、建設予定区域の適正度が「高い◎・普通○・低い△」の3段階で評価するものとし、評価にあたっては、定量的に示せる項目は数値で示し、定量的に示せない項目は評価に対するコメントを明記する。また、評価方法の考え方は終始変更しないものとする。

なお、別表以外に比較検討に重要と思われる事案が報告された場合は、検討の際に考慮するものとする。

表 比較評価項目と評価基準（修正案）

大項目	評価項目	評価基準
社会条件	土地利用上法規制	土地利用上の規制区域の有無を確認し、規制等がある場合は必要な許認可、法規制解除の容易さで評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い（◎）：規制等が無い。 ・適正度が普通（○）：規制等があるが、必要な許認可、法規制解除は容易。 ・適正度が低い（△）：規制等があり、必要な許認可、法規制解除が困難。
	景観への影響	周辺にある公園や人々が集まる場所からの景観への影響で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い（◎）：影響がほぼない。 ・適正度が普通（○）：影響はあるが小さい。 ・適正度が低い（△）：影響がかなり大きい。
	運搬時の住環境への影響	岩沼東部環境センターからの最適ルートを設定し、主要道路以外を対象に、住宅戸数やスクールゾーン、狭隘道路の有無で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い（◎）：住宅、スクールゾーン、狭隘道路が運搬経路にない。 ・適正度が普通（○）：住宅戸数が比較的少なく、スクールゾーン、狭隘道路が運搬経路にない。 ・適正度が低い（△）：住宅戸数が比較的多い、またはスクールゾーンや狭隘道路を通行する。
自然条件	災害危険性 (土地自身の持つ特性による影響要因)	防災面に係る法規制等の状況、災害履歴の有無、活断層との位置関係で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い（◎）：建設予定区域及びその周辺の法規制、災害履歴が無く活断層との距離が離れている。 ・適正度が普通（○）：建設予定区域及びその周辺に法規制、災害履歴があるが配置計画等で対応が可能。 ・適正度が低い（△）：建設予定区域及びその周辺に法規制、災害履歴があり配置計画等での対応が難しい。
	災害危険性 (大雨)	建設予定区域の雨水流域面積の大小で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い（◎）：流域面積は比較的小さい。 ・適正度が普通（○）：流域面積は平均的。 ・適正度が低い（△）：流域面積は比較的大きい。

大項目	評価項目	評価基準
	災害危険性 (津波)	建設予定区域のハザードマップの津波浸水想定による浸水深で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い (◎) : 津波浸水想定範囲外となっている。 ・適正度が普通 (○) : 津波浸水想定浸水深が 5m 以下。 ・適正度が低い (△) : 津波浸水想定が 5m より大きい。
	自然改変度	植生自然度 (7~10) の区域割合で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い (◎) : 植生自然度が高い植生 (7~10) が無い。 ・適正度が普通 (○) : 植生自然度が高い植生 (7~10) の占める面積割合が比較的小さい。 ・適正度が低い (△) : 植生自然度が高い植生 (7~10) の占める面積割合が比較的大きい。
建設条件	施設配置	施設配置の現実性、埋立容量の確保性、埋立効率性 (埋立容量/埋立面積) で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い (◎) : 現実的な配置で埋立容量が確保でき、埋立効率性が良い。 ・適正度が普通 (○) : 埋立容量は確保できるが、埋立効率性が比較的悪い。 ・適正度が低い (△) : 現実的な配置での埋立容量の確保が困難。
	跡地利用	計画埋立容量に到達した後の跡地利用の利便性について評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・利便性が高い (◎) : 土地の形状に制約がなく、効果的な跡地利用が可能。 ・利便性は普通 (○) : 土地の形状に制約が少なく、跡地利用に支障はない。 ・利便性は低い (△) : 土地の形状に制約があり、効果的な跡地利用が困難
経済性	概算整備費	概算整備費の大小で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い (◎) : 5 か所内で安価。 ・適正度が普通 (○) : 5 か所内で平均程度。 ・適正度が低い (△) : 5 か所内で高価。
	概算維持管理費	概算維持管理費の大小で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い (◎) : 5 か所内で安価。 ・適正度が普通 (○) : 5 か所内で平均程度。 ・適正度が低い (△) : 5 か所内で高価。

大項目	評価項目	評価基準
用地取得	土地利用状況	<p>現在の土地利用状況で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い（◎）：土地利用がされていない。 ・適正度が普通（○）：土地利用がされている面積の割合が比較的少ない。 ・適正度が低い（△）：土地利用がされている面積の割合が比較的大きい。
	用地取得の難易性	<p>地権者数で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正度が高い（◎）：地権者数は比較的少ない。 ・適正度が普通（○）：地権者数は平均的。 ・適正度が低い（△）：地権者数は比較的多い。
その他	その他の課題	候補地ごとに施設整備・運営を行う上で、その他の課題を記載する。